

川俣の元服式（かわまたのげんぷくしき）

日光市の川俣地区では、男子が数え年[※]20才の成人を^{むか}迎えると元服式を行います。これは、遠い親戚^{しんせき}などの中から、成人した後に様々な場面で世話をしてくれる親分を選び、親分・子分の関係^{ざしき}を結ぶ儀式です。

500年以上も続く、人間関係を深めるためのならわしで、国の重要無形民俗文化財^{みんぞく}になっています。

※数え年=生まれたときは1歳^{さい}で、次の正月が来ると1歳増えるという数え方。



手前が親分夫妻、向かいに新成人



親分・子分「固めの盃（さかずき）」



元服を祝って舞われる三番叟（さんばそう）と
夷大黒舞（えびすだいきくまい）

（写真：日光市提供）

〈「元服式」の様子〉

当日は、地区の住民が見守る中、^{もんつき}紋付^{はおりはかま}羽織袴で正装した新成人が、付け人を横に従え、親分夫妻と縁起物の料理（下写真）を挟んで向かい合います。



サクラエビ
（長寿）

タコ
（忍耐）

マメ
（健康）

コブマキ
（結束）

カズノコ
（子孫の繁栄）

キンピラ
（紅白祝い）

ワカサギ
（若さ）

親分・子分はやオチョウ・メチョウと呼ばれる小学生がついた「固めの盃」を飲み交わしたあと、「血肉を分けた深い関係になる」という縁起から、生魚を食べ分けます。

